

副会長会の報告

期日 平成23年8月2日(火)  
会場 全国連合退職校長会  
事務局 会議室

出席者

- 北海道 戸張 敦雄 会長
  - 東北 西 寛副会長
  - 東北 杉山 紘二副会長
  - 関東甲信越 岩佐 喜一副会長
  - 東京 片岡 敦子副会長
  - 東海北陸 小西 優副会長
  - 近畿 西川 芳徳副会長
  - 中国 徳永 耕一副会長
  - 四国 栗田 正己副会長
  - 九州 久手堅憲仁副会長(欠席)
- 他に、各部長・各委員長、事務局長及び事務局員、計22名が出席。

◇会議の概要

司会 総務部長 入子 祐三

一、開会のことば

副会長 岩佐 喜一

二、戸張会長挨拶(要旨)

総会以降、本部の事業は概ね順調に進められています。

東日本大震災以来、自然界の動きを見てみると気になることが多々あります。岩手・宮城・福島・茨城各県の地震、新たな地殻変動による地震の多発、台風6号の異常な進路、原発事故の今後、猛暑、新潟・福島県の豪雨等々ときには危惧することさえあります。さらに原発事故も心配です。

先般、文部科学省から「教員の資質能力の総合的な向上方策について」の意見を求められ、まとめた文書を文部科学省に提出いたしました。全国連合退職校長会のプレゼンスを認められた証左と嬉しく思います。

本年は、副会長の異動が大きい年でありました。9名のうち8名の方が新たに就任され大いなる新風を入れていただくことを、ご期待申しあげらる次第です。

三、報告

1 総会・常任理事会の報告

総務部長 入子祐三

(略)

2 各部・各委員会の事業の進捗状況

総務部

- 理事会・総会の準備・運営
- 中央省庁への要望書提出
- 文部科学省初等中等教育局長との懇談会の企画
- 現職幼・小・中・高・特別支援校園長との連絡懇談会の実施

教育振興部

- 「教育の日」の制定推進及び事業の充実に寄与する。
- 家庭・学校教育との関連から地域社会の教育上の役割と責任についての研究
- 教員の資質の向上を目指し、その在り方を研究
- 「教育憲章」の趣旨の徹底・普及を図る。

福利厚生部

- 年金・医療・介護等に関する要望活動

- 平成24年度に米寿・上寿を迎える会員の調査
- 平成22年度春秋叙勲受章者の調査

会報部

- 年間4回の会報発行
- 1月発行の会報は、新会員勧誘支援用として希望する都道府県に増配

会計部

- 予算執行に伴う通常業務の的確かつ敏速な処理
- 被災された会員の本会会費は免除
- 財務状況健全化検討を継続

生涯学習委員会

- 会員が組織的に活動している

- 情報の収集と広報に努める
- 生涯学習に役立つ事例を発信
- 文部科学省の「学校・家庭・地域の連携協力による推進事業」の実施に協力

教育課題委員会

- 「これからの学校教育の在り方」の研究を継続（教員の定数と学級編成・学習指導要領の円滑な実施にあたり、改善すべき諸課題について協議）

事業委員会

- 第5回出版図書「教師のためのなるほどQ&A」すぐに役立つ54のアイデア―（仮称）の編集が進み、7月末に出版社へ原稿を渡した。8月下旬から第1次校正に入る予定。出版は12月の予定。

3 各省庁への要望書

- 内容の詳細は、本誌P2〜3参照

四、各地区の現状と課題

①北海道地区 会長 西 寛

- 平成21・22年の2年にわたって「会務運営検討委員会」を設置して、会務全般についての検討を進めてきた。
- 主な改善点
  - 諸会議の削減
  - 会報の発行回数6回を4回に
  - 会員名簿の改善
  - 経費節減による支部活動費の増、等

②東北地区 会長 杉山絃二

- 東日本大震災による甚大な被害を受けた福島県、宮城県、岩手県の沿岸部は壊滅的な状況になり、（青森県も一部被害を受けた）多くの会員が犠牲となった。特に死亡・行方不明が、岩手県が16人、宮城県7人、福島県は犠牲者がゼロであった。家屋の倒壊や津波による流失、福島の場合は原発事故により避難生活を余儀なくされている会員も多数

③関東甲信越地区 会長 岩佐喜一

- 年々加入率が少しずつ下がってきている。若い退職後の方が新しい仕事を持つ例が多い。
- 会員の中に今後の年金制度や医療費等について不安を抱いている。退会連との連携を深めながら対応していきたい。

④東京地区 会長 片岡敦子

- 都教委の依頼を受け、被災者のホームステイ勧誘活動をした。また被災地に派遣している教員の後補充としての人材派遣に協力した。

- 免除に伴う予算規模を圧縮、事業計画の見直しを行う状況。宮城県では書面表決の形の総会を行った。

⑤東海北陸地区 会長 小西 優

- 学校数の減少により会員数が減少傾向。
- 「教育の日」の県条例化が難しい。

⑥近畿地区 会長 西川芳徳

- 退職者が他の会との関わりで加入率が低い。魅力ある運営の方策等を検討している。
- 現職校長と教育委員会との橋渡しをやることにより、現職校長の安心感・安定感等が増してきている。

⑦中国地区 会長 徳永耕一

- 支部活動が原点であるので、どう活性化し、盛り上げていくか、力を注いでいる。
- 退職された方がほとんど常勤の形で職に就くため、退職校長会の役職に就きにくい、また活動への参加がにぶい。

⑧四国地区 会長 栗田正己

- 退職校長会の存在価値をどこに置いて活動したらよいかを検討しながら進めている。
- 組織の強化拡充を図る方策を検討し、努力している。

五、閉会のことば

副会長 片岡敦子